



生活の中の石「温石石」の巻！

佐渡の石は多種多様です。その理由は佐渡を形づくる石のほとんどが大陸の火山活動でつくられたからです。このような岩石の宝庫であった大陸の東の端が割れて島となり、一度海の中に沈み、再び海上に現れた大地が佐渡島です。つまり佐渡の大地の産みの親はユーラシア大陸であったわけですね。

そんな佐渡の石は、古くは縄文時代の石器、中世以降は家の土台や石垣、近世の金山時代には石磨など人々は経験的に石の特徴を見出し、最も適した方法で利用してきました。そんな石の中でも産出場所が限定的でごく一部でしか使われなかった石に「温石石」があります。温石石は、熱を保持することができる石で、かつてはアンカやカイロとして使われました。温石



外海府の願大橋にある巨大な温石石

石は正式には「蛇紋岩」と呼ばれ、数億年前の太平洋のど真ん中で形成された岩石で、長い年月をかけて海洋を移動し大陸の端にくっつきました。この岩石は温まりにくく、冷めにくいという特徴を持つことから温石石を探すときには、日が落ちた夕暮れ時に、海岸でたくさん石に触り、他の石よりも温もりが残っているものを探り当てたそうです。現在は、海岸を探してみてもなかなか見つけれませんが、外海府の願大橋の欄干に、立派な温石石が置かれています。ぜひ一度訪ねてみてはいかがでしょうか？

◎ 社会教育課ジオパーク推進室

27 | 2162

市立病院から こんにちは

両津病院 布施 拓也先生 診療科目/内科

ハチ刺されに油断しないので

2020年4月より両津病院内科で勤務しております。布施拓也と申します。よろしくお願いします。

ましが出現したり、呼吸が苦しくなったりゼーゼーしたり、血圧が下がってしまったり意識を失うこともあります。中には、そのままお亡くなりになってしまいう方もいらっしゃる非常に怖い状態です。

今回は、「ハチ刺され」をテーマにお話しさせていただきます。皆さまの中にも、今年の夏にハチに刺されて痛い思いをした方がたくさんいらっしゃると思います。ハチに刺された方の大半は局所の反応のみ、つまり刺されたところの皮膚が赤く腫れ上がるだけで済んでしまします。しかし、中には重篤な反応を呈する方もいます。「アナフィラキシー」と呼ばれる反応です。

症状はハチに刺された後、数分から1、2時間程度で起きることが多いので、ハチに刺された後なるべく安静にしていたら、症状が出現するようであれば、近くの病院を受診していただくことをお勧めいたします。

今回は両津病院の猪本先生です。

簡単に仕組みを説明すると、過去にハチに刺されたときに体の中に、抗体と呼ばれるハチ毒に対する警察みたいなものができます。この抗体が、2回目以降にハチに刺されたときに全身で過剰なアレルギー反応を起こしてしまうというのがアナフィラキシーと呼ばれる状態です。

この状態になると、全身にじん

